

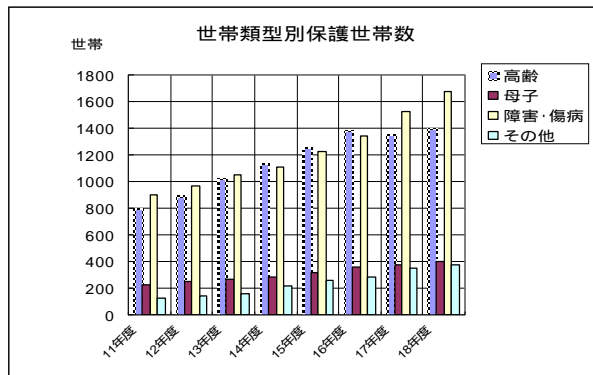
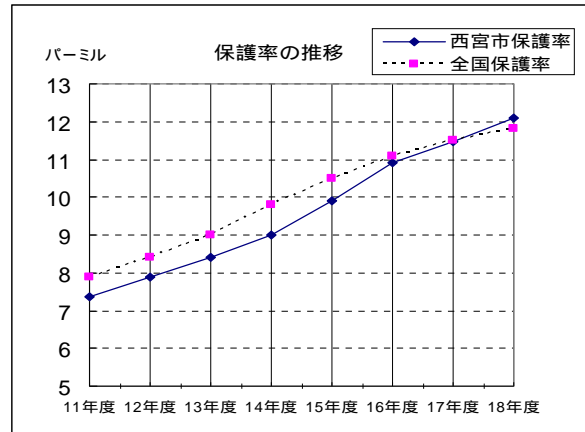
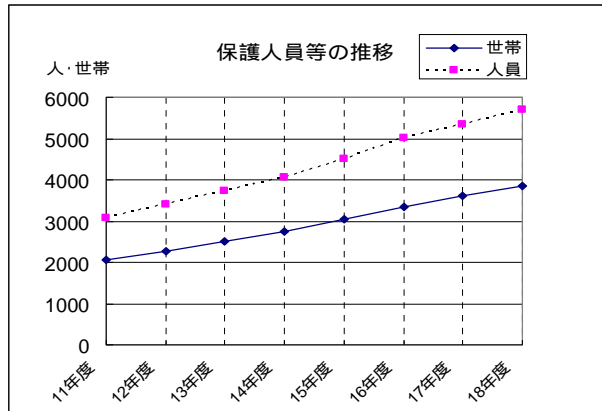
現状と課題

失業や疾病等様々な要因により収入が減少するなどした生活困窮者に対しては、最低限度の生活を保障するとともに、自立の援助を行っていく必要があります。

生活保護の受給世帯数については、平成11年度以降、自立世帯数に対し保護の申請世帯数が大幅に上回り、年々増加傾向にありましたが、平成17年度以降は、景気の回復傾向により、生活保護の増加も緩やかではありますが、鈍化の傾向が見受けられます。

ホームレスは平成15年度以降、減少傾向にはありますが、今後、自立の支援等に関する施策を総合的に検討し、地域社会における問題を含めて解決していく必要があります。

今後は、生活保護の適正な運営を図るとともに、被保護者の自立支援事業の実施拡大を検討して行く必要があります。



\* グラフの数値は、各年度とも平均値

基本方針

低所得者層については、生活保護を中心とした経済的援助を行うとともに、ケースワーカーによる定期的な訪問活動等を行い、自立阻害要因の把握に努め、積極的に自立した生活に向かえるよう、支援と援助を行います。

主要な施策展開

(1) 低所得者施策の推進

生活保護制度の趣旨に基づき、ケースワーカーによる定期的な訪問活動や面接などの実施により、被保護世帯の生活状況の把握に努め、世帯が抱える問題等を的確に把握します。

(2) 援護資金の効率的な運用

援護資金は、不慮の事故、疾病または失業等により、一時的に生計維持が困難となった市民に、自立更生を図る方策として実施している無利子の貸付事業です。期限内の償還率が50%を下回っている現状ですが、資金の効率的な運用を図るため、相談員による償還指導、督促の取り組みを継続していきます。

(3) ホームレスの支援

西宮市ホームレス自立支援対策連絡会を中心として、ホームレスの個々のニーズに応じた自立支援事業の効果的な推進を図ります。

市民一人ひとりの活動

生活保護制度の意義について、正しい理解を深める。

まちづくり指標

< 指標の考え方 >

ケースワーカーによる被保護者の生活状況の把握を重点指標に位置付け、それぞれの生活保護世帯に合った適切な支援や自立の援助に取り組んでいきます。

重点	指標名	単位	現状値 (H18)	目標値 (H30)	指標方向
	被保護世帯当たり訪問回数	%	2.4	3.0	↑
		式	訪問件数 / 被保護世帯数		
	H30目標値の設定理由 国の基準(2.7程度)を参考に設定				
	被保護世帯訪問達成率	%	89.7	100.0	↑
		式	訪問実件数 / 訪問予定件数		
	H30目標値の設定理由 国の基準を参考に設定				
	援護資金貸付償還率	%	43.2	100.0	↑
		式	償還済額 / 償還期限到来額		
	H30目標値の設定理由 原則として、期限通りに償還が行われることが望ましいため				